

第1号議案-事前配布資料1 令和3年度事業報告について

凡例 一・・・ゼロ予算で検討
 ○・・・着手し、一定の進捗を認めることができる

△・・・着手したが、進捗が見られなかった
 ×・・・着手できず、進捗が見られなかった

◆南信州地域公共交通計画に基づく実施事業 【南信州地域公共交通計画 P15～19 (2)実施事業 イ.実施事業)】

実施事業	事業名	事業概要	取組主体	R3年度 予算	R3年度 決算	R3年度 実施状況	R3年度の取組状況	備 考															
(7) 移動不便地区の解消	移動不便地区状況調査	南信州地域内の移動不便地区の状況を継続して把握する。	南信州地域交通問題協議会 (南信州広域連合)	—	—	○	<ul style="list-style-type: none"> 各市町村より報告をいただき、不便地区の状況の把握を行った。 各市町村で引き続き検討している中、一部(非移動不便地区)では沿線の取組やデマンドタクシーの実証運行が実施されている。 	・高校生の通学、高齢者の通院にかかる移動不便地区の調査 令和2年度の状況 <table border="1"> <thead> <tr> <th>目的</th> <th>地区数</th> <th>公共交通不便集落のある地区数</th> <th>うち代替手段のある地区数</th> <th>移動不便地区数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高校通学</td> <td>107</td> <td>25</td> <td>2</td> <td>23</td> </tr> <tr> <td>通院</td> <td>107</td> <td>31</td> <td>14</td> <td>17</td> </tr> </tbody> </table>	目的	地区数	公共交通不便集落のある地区数	うち代替手段のある地区数	移動不便地区数	高校通学	107	25	2	23	通院	107	31	14	17
目的	地区数	公共交通不便集落のある地区数	うち代替手段のある地区数	移動不便地区数																			
高校通学	107	25	2	23																			
通院	107	31	14	17																			
(4) 運行態様、運行経路、ダイヤ、運賃等の見直し	わかりやすい運賃体系	路線バスにおける重複区間の運賃不統一はあるが、各市町村の運賃体系を尊重しつつ利用者が混乱しないような分かりやすいルール化をめざす。	南信州地域交通問題協議会、市町村、地域公共交通会議	—	—	○	<ul style="list-style-type: none"> いくつかの市町村で、利用者向けに分かりやすくなるよう運賃表の提示や一律の運賃体系の導入が行われている。 																
(エ) 情報提供、啓発	各路線のナンバリング化	利用者にわかりやすい表示とするため、乗合タクシーを含む基幹路線、准基幹路線、支線にナンバリング、カラーリングを実施し、車両の方向幕、時刻表等と連動させる。	南信州地域交通問題協議会、市町村、地域公共交通会議	50,000	0	○	<ul style="list-style-type: none"> 通常路線についてのナンバリングは、各市町村で取組が進んでいる。 乗合タクシーやデマンドタクシーへのナンバリングについて検討した結果、ナンバー分けではなく、色で判断できるように整備する方向で整理を行った。 すでに整備された広域バス、市町村バスのナンバリングについて見直す際には、ルールに基づき変更を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 広域バス、市町村バスのナンバリングについて、H27年度から研究・検討を開始し、令和元年度に車両等のLED方向幕やマグネットシートの整備が概ね完了した。 															
	統一的な時刻表フォーマットづくり	それぞれの路線ごとに時刻表の体裁が異なり分かりにくいため、南信州地域の標準的な時刻表フォーマットを作成し、提案する。	南信州地域交通問題協議会 (南信州広域連合)	—	—	○	<ul style="list-style-type: none"> いくつかの市町村で、改正の取組が進んでいる。 利用者が現状の時刻表に慣れていることから、変更が難しいと改正を見送られている線も一部存在する。 																
	結節点停留所デザインの統一化	結節点停留所においては、ナンバリング、カラーリングを反映した分かりやすい時刻表、路線図の掲示を行う。	南信州地域交通問題協議会 (南信州広域連合)	400,000	118,000	○	<ul style="list-style-type: none"> 市立病院停留所の一部案内を、利用者に分かりやすい乗り継ぎ案内のデザインに差し替え、半年間様子を見ることとしている。その間に特に支障が無ければ今後差し替えを実施する。 																
	公共交通ポータルサイトによる情報発信	南信州地域の公共交通ポータルサイトを充実させ、利用者に使いやすく、分かりやすい情報提供に努めるとともに、公式Twitter等の適時適切な情報更新に努める。	南信州地域交通問題協議会 (南信州広域連合)	200,000	66,000	○	<ul style="list-style-type: none"> ポータルサイトの管理運営やSNSにて情報発信を行っている。 																
	広報誌による啓発	南信州広域連合広報誌の公共交通啓発コーナーにおいて、公共交通の認知度向上を図る。	南信州地域交通問題協議会 (南信州広域連合)	—	—	○	<ul style="list-style-type: none"> 各市町村のHPや広報誌で情報発信が行われた。 昨年度は、広域連合広報誌での情報発信を行うタイミングがなかったため、今後はその他の手段を含め適宜情報発信・啓発を実施する。 																
	乗り方教室の開催	高齢者、児童・生徒を対象としたJR飯田線、路線バス等の乗り方教室イベントを開催する。	南信州地域交通問題協議会、交通事業者、市町村、地域公共交通会議	200,000	198,000	○	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響もあったが、いくつかの市町村では、乗り方教室を実施した。各市町村で行われるイベント等で配布できるよう、クリアファイルを作成した。 																
	公共交通に親しむイベントの開催	住民を対象としたイベントと連携する等して、公共交通に親しむイベントやバスガイド体験等、公共交通を身近に感じられるイベントを開催する。	南信州地域交通問題協議会、交通事業者、市町村、地域公共交通会議	20,000	20,000	○	<ul style="list-style-type: none"> 「南信州環境メッセ2021」に参画し、公共交通を身近に感じてもらえるよう取り組んだ。また、市町村の中では、地区の公民館文化祭に事業者と協力して電気バスの出展等も取り組まれた。 																
(オ) 市町村負担の縮減	補助金の活用	運行、車両購入等に対する国の地域公共交通確保維持事業(地域間幹線系統確保維持費国庫補助金、地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金)をはじめとした補助金を効果的に活用する。	市町村、地域公共交通会議、南信州地域問題協議会	—	—	○	<ul style="list-style-type: none"> 新制度では補助金申請主体となり、加えて補助金の受け皿になるため、体制の整備を行っている。 																

(ハ) 事業者支援	二種免許取得支援	普通二種免許の取得に向けた支援の仕組みを導入する。	南信州地域交通問題協議会、タクシー協会	—	—	×	・今後、関係組織と研究・検討を進める。	
	貨客混載の導入	公共交通(タクシーを含む)事業者の新たな事業展開の一つとして過疎地域において導入が可能になった路線バス、タクシーによる貨客混載の検討を行い、必要に応じて導入を進める。 【過疎地域：旧上村、旧南信濃村、阿南町、旧浪合村、旧清内路村、平谷村、根羽村、売木村、天龍村、泰阜村、大鹿村】	バス事業者、タクシー事業者、市町村、南信州地域交通問題協議会	—	—	○	・バス、乗合タクシーの運行ダイヤと物流事業者の集配・配達とのマッチングが難しいという課題はあるが、一部(遠山郷地域乗り合いタクシー)では現在も導入されており、また令和4年度の開始に向けて準備を進めている市町村もある。	・H29、30年度、ヤマト運輸と導入に向けた調整を図るが、マッチングが困難となり、検討が中断。 ・H31年4月～乗合タクシー遠山郷5路線(遠山郷線、上村線、須沢線、下栗線、上島線)、八重河内線、平岡線での貨客混載の実施
	タクシーを活用した新たなサービスの実施	タクシー便利屋(買い物代行、病院への診察申し込み・薬取り・順番取り等)、緊急救援システム等の救援事業、及びタクシー事業者による食料・飲料のデリバリー・出前等の研究を行い、必要に応じて導入を進める。	タクシー事業者、南信州地域交通問題協議会	—	—	×	・今後、関係組織と研究・検討を進める。	・R2年度、タクシー協会下伊那支部に加盟する9社による「南信州助け合いタクシー(貨物輸送(デリバリーサービス))」の実施
(キ) 二次交通対策	二次交通の利用も見据えた駒場線の改善	昼神温泉へ運行する基幹路線である駒場線を、既存路線を活用した二次交通路線としても位置づけ、来訪者に使いやすい見直しを行う。 【例】昼神温泉発着便の増便、わかりやすい路線名の検討、リニア開業を見据えたリニア駅への延伸等	阿智村、飯田市、飯田市地域公共交通改善市民会議、南信州地域交通問題協議会	—	—	×	・今後、関係組織と研究・検討を進める。	
	リニア駅開業に合わせた路線の見直し	リニア開業後の二次交通に関し、リニア中央新幹線長野県駅(仮称)と主要な交通結節点であるJR飯田駅とをシームレスに結ぶ複数路線について、既存路線の再編を含めた見直しの方向性について検討する。	飯田市、飯田市地域公共交通改善市民会議、南信州地域交通問題協議会	—	—	×	・今後、関係組織と研究・検討を進める。	
	観光タクシーの普及	タクシーを活用した観光ルートについて、地域連携DMOである(株)南信州観光公社と連携し、既存の2ルートの本格運用を図るとともに、新たなコース設定も行き普及を進める。	タクシー事業者、(株)南信州観光公社、南信州地域交通問題協議会	—	—	×	・今後、関係組織と研究・検討を進める。	
(ク) 新技術への対応	GTFS-JPの導入	観光利用が想定される路線を中心に、基幹路線・准基幹路線・観光特化路線に標準的なバス情報フォーマット(GTFS-JP)の導入を進める。翻訳情報の付加についても検討する。	南信州地域交通問題協議会(南信州広域連合)	936,000	366,300	○	・R3年度、市町村担当者や交通事業者を参集し講習会を開催した。複数市町村で、データ入力等の取組が進んだ。 ・今後、主に基幹路線、准基幹路線、観光特化路線のGTFS-JPの導入を目指す。	
	自動運転の研究	自動運転は、当地域においても短期間の実証実験が実施された経緯もことから、将来的な実用化に向けた取組みを引き続き実施する。	南信州地域交通問題協議会、市町村、交通事業者	—	—	×	・関係組織と研究・検討を進める。	・平成30年11月に飯田市で実証実験(KDDI)
	シェアリングによる乗合タクシーの活用	利用者にとって低廉な料金で利用可能となるタクシーの相乗りについて、国の動向を見つつ、導入に向けた取組みを進める。	タクシー事業者、タクシー協会、南信州地域交通問題協議会	—	—	×	・関係組織と研究・検討を進める。	
(ケ) その他	災害時等の運休に対する対応	災害時等のJR飯田線、バス路線等の運休に対して、各市町村の防災計画と連携し、情報収集、連絡等の体制を備える。	市町村、交通事業者、南信州地域交通問題協議会	—	—	○	・いくつかの路線で、災害による運休等の対応を実施した。	
	新型コロナウイルス感染症対策事業費	新型コロナウイルス感染症の影響を受け、公共交通の利用者は著しく減少しており、このままでは地域公共交通の維持が脅かされる恐れがある。一方で、各交通事業者においては、安全・安心な運行に加え、新しい生活様式に移行する中で安心して利用できるよう、感染防止のための様々な取組みを実施している。これらの取組みを住民に周知し、公共交通利用への回帰を促す取組みを行う	南信州地域交通問題協議会	300,000	344,630	○	・新型コロナウイルス感染症防止にかかる宣言書を提出いただいた事業者に対し、「感染防止宣言ステッカー(マグネット)」を配布し、バスやタクシーに取り付けていただき、利用者、地域住民の方々への安心の提供による利用促進を行った。	

令和3年度 進捗状況評価シート（南信州地域交通協議会）

① 前年度の取組の概要

- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、ワークショップやイベントの開催が見送られることが多かった、一方で公共交通以外の説明会や出前講座といった小規模での集まりでの公共交通の促進が進んでいる。
- ・感染症の影響もあり、昨年度に引き続き利用者数は減少傾向にある。
- ・利用しやすい環境づくりの一環として、分かりやすい運賃体系の導入、路線のナンバリング、停留所デザインの統一に向けた試行、GTFS-JP等の取組を主に推進した。

②事業の実施状況

資料3をご参照願います。

③目標の達成状況

目標(1) 移動不便地区の解消

評価指標	目標値	基準値	実績値				
			R1年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
高校通学の移動不便地区数	0地区	23地区	23地区				
通院の移動不便地区数	0地区	17地区	17地区				
達成状況に関する考察	各市町村で引き続き検討しているが、市町村を横断する内容である路線の場合、検討を進めるのが難しい。						
今後の方針	各市町村の取組状況等を伺う中で、検討要望が生じた際は、横断的な検討の場の整備を行っていく必要がある。						

目標(2) 利便性の向上

評価指標	目標値	基準値	実績値				
			R1年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
住民一人あたりの1年間の公共交通の利用回数	3.33回/人	3.33回/人	2.62回/人				
達成状況に関する考察	利用者延べ人数が403,006人（基準年比約2割減）であり、これは新型コロナウイルス感染症の影響による公共交通の利用機会の減少に加え、主要な利用者である中高生・高齢者の公共交通離れが主要因と考える。						
今後の方針	コロナ対策を行っていることを周知しながら、中高生・高齢者が利用しやすい環境づくりの検討や対策を進める。						

目標(3)持続可能な運行の確立

評価指標	目標値	基準値	実績値				
		R1 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度
利用者一人あたりの市町村負担額	538 円/人	538 円/人	771 円/人				
運行経費に対する運賃収入の比率	19.4%	19.4%	14.6%				
達成状況に関する考察	コロナウイルス感染症に伴う利用者減による運賃収入の減少により、利用者一人あたりの市町村負担額が増加している。						
今後の方針	中高生・高齢者への利便性の向上に努めるとともに、各路線の運行改善に繋がる取組の支援に努める。						

目標(4)観光地等への来訪者の移動手段の確保

評価指標	目標値	基準値	実績値				
		R1 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度
観光タクシーの運行回数	200 回	0 回	1 回				
達成状況に関する考察	数路線で観光タクシーの運用が令和元年度より開始されているが、コロナウイルス感染症の影響が出始めた時期と重なったこと等をはじめとして利用が進んでいない。						
今後の方針	関係団体と協議し、現状を把握した上で2次交通の手段のひとつとして認知されるような支援策を模索する。						

目標(5)新技術の導入に向けた取組み

評価指標	目標値	基準値	実績値				
		R1 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度
GTFS-JP の基幹路線・准基幹路線に対する整備率	100%	0%	8%				
達成状況に関する考察	基幹線 1 (S0 阿南線)、支線 2 (E4 そよかぜ (氏乗)、T3 堀越線) が令和 3 年度に GTFS-JP の整備を実施した。(対象路線 1 2 路線中 1 路線)						
今後の方針	令和 4 年度に基幹路線・准基幹路線について、各市町村・事業者に参加していただき、整えられるよう専門家に助力いただきながら支援する。支線の整備についても、検討している路線があれば、同様に取り組んでいく。 また、継続的な更新を行えるよう、GTFS-JP の講習会などで各市町村及び事業者の担当者のフォローアップしていく。						

進捗状況評価シート 令和3年度（飯田市）

①前年度の取組の概要 ※前年度に実施した取組の概要および社会情勢等について簡潔に記載

- ・公共交通の存在を知ってもらうことが大切と考え、乗り方教室出前講座開催案内等の地道な呼びかけをおこなったところ、例年より多くの開催となった。
- ・飯田市地域公共交通改善市民会議主体により公共交通の日を年間9日間実施したが、コロナ禍の影響で検証ができない。
- ・持続可能な地域公共交通の構築に向けた検討会発足に向けた準備会の実施。

②事業の実施状況

取組主体	事業名	実施状況	実施内容等
市町村、地域公共交通会議	移動不便地区の解消	—	なし
	運行態様の見直し	×	
	効果的な運行便数等の検討	×	
	乗り継ぎの改善	×	
	わかりやすい運賃体系	×	
	定期券、回数券の充実	○	既に低価格で販売
	公共交通利用優遇事業	×	
	免許返納者への移手段の提供	○	公共交通利用のきっかけ作りとして支援制度の実施（回数券交付）
	キャッシュレス決済の導入	×	
	各路線のナンバリング化	×	
	統一的な時刻表フォーマットに沿った時刻表の改正	×	
	各市町村におけるホームページによる情報提供	○	毎年改正し、情報発信をしている
	乗り方教室の開催	○	例年より多く実施できた
	公共交通に親しむイベントの開催	○	南信州交通問題協議会、信南交通と共同し環境メッセ出展。信南交通、環境モデル都市推進課、中部電力と共同し、地区公民館文化祭に出展。
	補助金の活用	○	
	貨客混載の導入	○	既に遠山郷地域乗合タクシーで導入している
	二次交通の利用も見据えた駒場線の改善(阿智村、飯田市)	×	
	自転車シェアリングとの連携	×	
	自動運転の導入	×	
	AI オンデマンド交通等の活用	×	
災害時等の運休に対する対応	×		

③事業の実施結果に対する考察 ※事業を実施した結果、得られた成果やその理由などについて考察

- ・日常的に自家用車による移動がほとんどのため、公共交通の存在を知らない、知っていても乗らない・乗り方がわからない、したがって乗るのが億劫、という方が多い。まずは簡単に乗れるということを知ってもらう働きかけが第一。元気なうちから乗るのが重要。
- ・環境保全や健康促進等の視点からも公共交通をPRしていく必要があると考える。

④今後の取組方針 ※今後の事業への反映など「改善」を意識して記載

- ・地道な広報活動、積極的な乗り方教室の実施。
- ・交通事業者及び庁内関係部において検討会議を設け、利便性の高い持続可能な地域公共交通の構築に向けた検討を行う。

進捗状況評価シート 令和3年度（松川町）

①前年度の取組の概要 ※前年度に実施した取組の概要および社会情勢等について簡潔に記載

令和3年7月に、75歳～90歳の高齢者を対象とした移動実態調査を実施。「バス停までの距離が遠い」、「運行時間が合わない」等の意見を踏まえ、フルデマンド化に向けた準備調整に着手。

②事業の実施状況

取組主体	事業名	実施状況	実施内容等
市町村、地域公共交通会議	移動不便地区の解消	○	デマンドタクシーの実証運行延長
	運行態様の見直し	○	デマンドタクシーの実証運行延長
	効果的な運行便数等の検討	○	デマンドタクシーの実証運行延長
	乗り継ぎの改善	×	
	わかりやすい運賃体系	○	全区間共通（大人200円）
	定期券、回数券の充実	○	小中学生通学定期券等
	公共交通利用優遇事業	×	実施しているが改善の余地あり
	免許返納者への移手段の提供	×	提供しているが改善の余地あり
	キャッシュレス決済の導入	×	
	各路線のナンバリング化	○	実施済み
	統一的な時刻表フォーマットに沿った時刻表の改正	○	実施済み
	各市町村におけるホームページによる情報提供	○	実施済み
	乗り方教室の開催	×	コロナ禍につき未実施
	公共交通に親しむイベントの開催	○	JR伊那大島駅100周年イベント
	補助金の活用	○	実施中
	貨客混載の導入	×	
	二次交通の利用も見据えた駒場線の改善(阿智村、飯田市)	—	
	自転車シェアリングとの連携	×	
	自動運転の導入	×	
	AIオンデマンド交通等の活用	×	
災害時等の運休に対する対応	○	音声放送・ホームページにより随時実施	

③事業の実施結果に対する考察 ※事業を実施した結果、得られた成果やその理由などについて考察

上記取組を継続しているものの、コロナの影響もあって利用客数の増加にはつながっていない。

④今後の取組方針 ※今後の事業への反映など「改善」を意識して記載

フルデマンド化により進展可能な取組もあるため、準備調整を進める。

進捗状況評価シート 令和3年度（高森町）

① 年度の取組の概要 ※前年度に実施した取組の概要および社会情勢等について簡潔に記載

・路線の利用促進のため、特に通勤・通学向けバスの運行改善に取り組んだ。町内高校生へDMによるアンケートを実施して利用実態を集計。12月に町内高校生と懇談会を実施し、停留所や時刻などの意見を収集。県外の運行形態も参考にし、次年度から夕方の便をデマンド型として運行開始予定。予約システムを外注し町公式ラインアプリから移行可能。同時にグーグルマップでの停留所位置情報を掲載。利用方法を撮影し動画で公開。

② 事業の実施状況

取組主体	事業名	実施状況	実施内容等
市町村、地域公共交通会議	移動不便地区の解消	×	
	運行態様の見直し	○	夕方便をデマンド化
	効果的な運行便数等の検討	○	夕方便を2便から6便に変更
	乗り継ぎの改善	○	朝便の駅到着時刻を修正、乗り継ぎ時間を短縮
	わかりやすい運賃体系	—	
	定期券、回数券の充実	—	
	公共交通利用優遇事業	×	
	免許返納者への移手段の提供	×	
	キャッシュレス決済の導入	—	ふくまるくんカード・アプリを運用中
	各路線のナンバリング化	×	
	統一的な時刻表フォーマットに沿った時刻表の改正	×	
	各市町村におけるホームページによる情報提供	×	
	乗り方教室の開催	×	未実施 4年度に注力
	公共交通に親しむイベントの開催	×	
	補助金の活用	○	国庫補助金を申請
	貨客混載の導入	×	
	二次交通の利用も見据えた駒場線の改善(阿智村、飯田市)	×	
	自転車シェアリングとの連携	×	
自動運転の導入	×		
AI オンデマンド交通等の活用	×		
災害時等の運休に対する対応	×		

③ 事業の実施結果に対する考察 ※事業を実施した結果、得られた成果やその理由などについて考察

高校生アンケートの実施結果として、そもそもバスの存在を知らない人が多かった。通学バスを含め、全体的なバスに対する周知不足が課題。

④ 今後の取組方針 ※今後の事業への反映など「改善」を意識して記載

バスの運行内容の見直しだけでなく、周知・啓発活動に力を入れる。
飯田市の出前講座を参考に、直接地区に赴いてバスの乗り方を説明する機会を計画する。
ICTを活用したデマンド方式の導入等により、引き続き通勤・通学バスの利用促進を図っていく。

進捗状況評価シート 令和3年度（下伊那南部総合）

① 前年度の取組の概要 ※前年度に実施した取組の概要および社会情勢等について簡潔に記載

- ・新型コロナウイルス感染症の影響で、乗降客が減少している中で、少子高齢化人口減少と併せて利用者の減少が続いている。
- ・降雪等が例年より多かったが、概ね計画通りの運行が実施できた。

②事業の実施状況

取組主体	事業名	実施状況	実施内容等
市町村、地域公共交通会議	移動不便地区の解消	×	
	運行態様の見直し	×	
	効果的な運行便数等の検討	×	
	乗り継ぎの改善	×	
	わかりやすい運賃体系	×	
	定期券、回数券の充実	×	以前から実施の回数券のみの実施
	公共交通利用優遇事業	×	
	免許返納者への移手段の提供	○	令和2年度から実施
	キャッシュレス決済の導入	×	
	各路線のナンバリング化	○	S0 と S1 としてナンバリング済み
	統一的な時刻表フォーマットに沿った時刻表の改正	×	住民が現在の時刻表になれているため、変更は難しい。
	各市町村におけるホームページによる情報提供	○	
	乗り方教室の開催	×	新型コロナウイルスの影響があり近年実施無し。
	公共交通に親しむイベントの開催	×	〃
	補助金の活用	○	
	貨客混載の導入	×	
	二次交通の利用も見据えた駒場線の改善(阿智村、飯田市)	—	
	自転車シェアリングとの連携	×	
	自動運転の導入	×	
	AI オンデマンド交通等の活用	×	現状の方式を継続する予定である。
災害時等の運休に対する対応	×		

③事業の実施結果に対する考察 ※事業を実施した結果、得られた成果やその理由などについて考察

④今後の取組方針 ※今後の事業への反映など「改善」を意識して記載

- ・回数券の色が2色しかないため、金種の違いが料金箱投入後の目視での確認が難しいため、色を金種毎に変更することを検討する。
- ・関係町村の交通事情の変化に併せ、スムーズな交通移動が可能となるように連携を深めたい。

進捗状況評価シート 令和3年度（阿南町）

① 前年度の取組の概要 ※前年度に実施した取組の概要および社会情勢等について簡潔に記載

持続可能な公共交通を目指し、令和3年4月からタクシー券購入助成の助成率引き上げ（5割⇒8割）と、令和3年7月から町民バスの運行便数の減便（3台運行⇒2台運行）を実施した。

②事業の実施状況

取組主体	事業名	実施状況	実施内容等
市町村、地域公共交通会議	移動不便地区の解消	○	上記概要参照
	運行態様の見直し	○	上記概要参照
	効果的な運行便数等の検討	○	上記概要参照
	乗り継ぎの改善	×	
	わかりやすい運賃体系	×	
	定期券、回数券の充実	×	
	公共交通利用優遇事業	×	
	免許返納者への移手段の提供	○	R3.1～ 運賃無料化
	キャッシュレス決済の導入	×	
	各路線のナンバリング化	×	
	統一的な時刻表フォーマットに沿った時刻表の改正	×	
	各市町村におけるホームページによる情報提供	○	
	乗り方教室の開催	×	
	公共交通に親しむイベントの開催	×	
	補助金の活用	×	
	貨客混載の導入	×	
	二次交通の利用も見据えた駒場線の改善(阿智村、飯田市)	×	
	自転車シェアリングとの連携	×	
	自動運転の導入	×	
	AI オンデマンド交通等の活用	×	
災害時等の運休に対する対応	×		

② 事業の実施結果に対する考察 ※事業を実施した結果、得られた成果やその理由などについて考察

行政コストの削減と町民バスの運休日の移手段の充実につながった

③ 今後の取組方針 ※今後の事業への反映など「改善」を意識して記載

昨年度の取組の検証を行い、よりよい公共交通となるよう努める

進捗状況評価シート 令和3年度（阿智村）

①前年度の取組の概要 ※前年度に実施した取組の概要および社会情勢等について簡潔に記載

<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響で乗り方教室など幅広い世代へ公共交通についての周知ができなかった。 ・通学、通院等生活のニーズに寄り添った時刻表の改定を行った。 ・65歳、75歳教室にて運転免許自主返納者支援制度についてだけでなく、村内の公共交通について説明を行った。
--

②事業の実施状況

取組主体	事業名	実施状況	実施内容等
市町村、地域公共交通会議	移動不便地区の解消	○	協議会の委員や村民から意見あり、今後検討する。
	運行態様の見直し	○	R2年9月に大幅に路線を変更したため、時間や回る順番等の細かい調整を行った。
	効果的な運行便数等の検討	○	清内路線2~5便と浪合線1便が駒場線との乗継に余裕がなかったため、清内路線は始発を2~5分、浪合線は始発を5分早めた。伍和線2便は、他の路線と停留所での時間が重なる事があり、始発を15分早めた。
	乗り継ぎの改善	○	駒場線結節する清内路線、浪合線の乗継を改善するため、時間を調整した。
	わかりやすい運賃体系	○	
	定期券、回数券の充実	○	使用できる範囲を拡大。使用できる路線が分かりやすいようにデザインを変更した。
	公共交通利用優遇事業	×	今後検討していきたい。
	免許返納者への移手段の提供	○	阿智村共通回数乗車券を配布。
	キャッシュレス決済の導入	×	今後研究を進めていきたい。
	各路線のナンバリング化	×	委託業者と検討していく。
	統一的な時刻表フォーマットに沿った時刻表の改正	○	
	各市町村におけるホームページによる情報提供	○	広報担当と相談をし、情報発信を行った。
	乗り方教室の開催	×	新型コロナウイルス感染症拡大防止により未実施
	公共交通に親しむイベントの開催	×	新型コロナウイルス感染症拡大防止により未実施
	補助金の活用	○	
	貨客混載の導入	×	今後、研究していく
	二次交通の利用も見据えた駒場線の改善(阿智村、飯田市)	×	今後、研究・検討を行う
	自転車シェアリングとの連携	×	
	自動運転の導入	×	
	AI オンデマンド交通等の活用	×	今後、研究・検討を行う。
災害時等の運休に対する対応	×		

③事業の実施結果に対する考察 ※事業を実施した結果、得られた成果やその理由などについて考察

<ul style="list-style-type: none"> ・回数乗車券の利用範囲を拡大し、使用できる路線が分かりやすいようデザインを変更。回数乗車券の利用者が少しずつ増えてきている。 ・高齢者に対し免許返納制度について説明を行ったところ、問い合わせが増えた。

④今後の取組方針 ※今後の事業への反映など「改善」を意識して記載

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者は、現状高齢者が多いため、バス停の場所を再検討し、乗り降りしやすい場所へ整備を行う。 ・乗合タクシー、デマンドタクシーの運行を行っているが、電話予約の煩わしさや利用方法が分かりにくいといった意見があるため、村内広報誌、ケーブルテレビの活用など広報手段を検討していく。
--

進捗状況評価シート 令和3年度（平谷村）

①前年度の取組の概要 ※前年度に実施した取組の概要および社会情勢等について簡潔に記載

一般利用者の増を図るため、高齢者の利用料無料化について検討を進めたが、共同で運行する3村で、高齢者への支援内容が相違するため、引き続き他事業との調整を含め検討を継続する。

②事業の実施状況

取組主体	事業名	実施状況	実施内容等
市町村、地域公共交通会議	移動不便地区の解消	×	
	運行態様の見直し	-	
	効果的な運行便数等の検討	-	
	乗り継ぎの改善	-	
	わかりやすい運賃体系	-	
	定期券、回数券の充実	-	
	公共交通利用優遇事業	×	
	免許返納者への移動手段の提供	×	西部3村で利用料軽減について検討したい。
	キャッシュレス決済の導入	-	
	各路線のナンバリング化	-	
	統一的な時刻表フォーマットに沿った時刻表の改正	-	
	各市町村におけるホームページによる情報提供	○	春休み等の時刻変更(西部コミュニティバス)があった際には、その都度ホームページに載せ情報発信できている。
	乗り方教室の開催	×	未実施
	公共交通に親しむイベントの開催	×	未実施
	補助金の活用	-	
	貨客混載の導入	-	
	二次交通の利用も見据えた駒場線の改善(阿智村、飯田市)	-	
	自転車シェアリングとの連携	-	
	自動運転の導入	-	
	AI オンデマンド交通等の活用	-	
災害時等の運休に対する対応	×		

③事業の実施結果に対する考察 ※事業を実施した結果、得られた成果やその理由などについて考察

高齢者に対する利用料軽減について、引き続き検討する。

④今後の取組方針 ※今後の事業への反映など「改善」を意識して記載

高齢者に対する利用料軽減について、引き続き検討する。

進捗状況評価シート 令和3年度（根羽村）

① 前年度の取組の概要 ※前年度に実施した取組の概要および社会情勢等について簡潔に記載

新型コロナウイルス感染症対策を徹底した上で定時路線バスの運行を継続。

②事業の実施状況

取組主体	事業名	実施状況	実施内容等
市町村、地域公共交通会議	移動不便地区の解消	×	
	運行態様の見直し	×	
	効果的な運行便数等の検討	×	
	乗り継ぎの改善	×	駒場線改時刻表改正時等必要に応じて実施
	わかりやすい運賃体系	×	
	定期券、回数券の充実	×	
	公共交通利用優遇事業	×	高齢者の無料化について検討
	免許返納者への移動手段の提供	×	
	キャッシュレス決済の導入	×	
	各路線のナンバリング化	×	
	統一的な時刻表フォーマットに沿った時刻表の改正	×	
	各市町村におけるホームページによる情報提供	×	
	乗り方教室の開催	○	
	公共交通に親しむイベントの開催	×	
	補助金の活用	○	
	貨客混載の導入	×	
	二次交通の利用も見据えた駒場線の改善(阿智村、飯田市)	×	
	自転車シェアリングとの連携	×	
	自動運転の導入	×	
	AI オンデマンド交通等の活用	×	
災害時等の運休に対する対応	×		

② 事業の実施結果に対する考察 ※事業を実施した結果、得られた成果やその理由などについて考察

③ 今後の取組方針 ※今後の事業への反映など「改善」を意識して記載

根羽村、平谷村から阿智村、飯田市への唯一の公共交通機関として、人口減少、少子高齢化が進む中であっても。引き続き定時路線運行を継続する。
 高齢者の利用料無料化等、関係する3村で協議しながら、利用者増を住民サービスの向上について検討を続ける。

進捗状況評価シート 令和3年度（下條村）

①前年度の取組の概要 ※前年度に実施した取組の概要および社会情勢等について簡潔に記載

--

②事業の実施状況

取組主体	事業名	実施状況	実施内容等
市町村、地域公共交通会議	移動不便地区の解消	×	R4 年度検討事項
	運行態様の見直し	-	
	効果的な運行便数等の検討	-	
	乗り継ぎの改善	-	
	わかりやすい運賃体系	-	
	定期券、回数券の充実	-	
	公共交通利用優遇事業	-	
	免許返納者への移手段の提供	○	(継続事業) タクシー券の毎月供与
	キャッシュレス決済の導入	-	
	各路線のナンバリング化	-	
	統一的な時刻表フォーマットに沿った時刻表の改正	-	
	各市町村におけるホームページによる情報提供	○	
	乗り方教室の開催	-	
	公共交通に親しむイベントの開催	×	
	補助金の活用	-	
	貨客混載の導入	-	
	二次交通の利用も見据えた駒場線の改善(阿智村、飯田市)	-	
	自転車シェアリングとの連携	-	
	自動運転の導入	-	
	AI オンデマンド交通等の活用	-	
災害時等の運休に対する対応	-		

③事業の実施結果に対する考察 ※事業を実施した結果、得られた成果やその理由などについて考察

--

④今後の取組方針 ※今後の事業への反映など「改善」を意識して記載

R151 新粒良脇トンネル開通に伴う、停留所の見直しを検討する。

進捗状況評価シート 令和3年度（売木村）

①前年度の取組の概要 ※前年度に実施した取組の概要および社会情勢等について簡潔に記載

- ・デマンド方式で運営している村民バスのほかは、所管の公共交通がなく、交通機関の運行に関する部分については取り組みを行っていない。
- ・新型コロナウイルス感染症により、各種イベント等も実施しづらい状況である。

②事業の実施状況

取組主体	事業名	実施状況	実施内容等
市町村、地域公共交通会議	移動不便地区の解消	×	
	運行態様の見直し	×	
	効果的な運行便数等の検討	×	
	乗り継ぎの改善	×	
	わかりやすい運賃体系	×	
	定期券、回数券の充実	×	
	公共交通利用優遇事業	×	
	免許返納者への移手段の提供	○	
	キャッシュレス決済の導入	×	
	各路線のナンバリング化	×	
	統一的な時刻表フォーマットに沿った時刻表の改正	×	
	各市町村におけるホームページによる情報提供	×	今後検討していきたい。
	乗り方教室の開催	×	
	公共交通に親しむイベントの開催	×	
	補助金の活用	×	
	貨客混載の導入	×	
	二次交通の利用も見据えた駒場線の改善(阿智村、飯田市)	—	
	自転車シェアリングとの連携	×	
	自動運転の導入	×	
	AI オンデマンド交通等の活用	×	
災害時等の運休に対する対応	×		

③事業の実施結果に対する考察 ※事業を実施した結果、得られた成果やその理由などについて考察

- ・路線バスや村民バスの運行、シニアカー購入補助などにより、昨年度よりも免許証の返納者が増加している。

④今後の取組方針 ※今後の事業への反映など「改善」を意識して記載

- ・公共交通に親しむイベントなど、路線バスの利用者の増に向けたイベント等の実施を検討していきたい。

進捗状況評価シート 令和3年度（天龍村）

① 前年度の取組の概要 ※前年度に実施した取組の概要および社会情勢等について簡潔に記載

- ・新型コロナウイルス感染症に対応するニーズ把握や改善はできなかった。
- ・貨客混載の許可申請を行い、令和4年4月1日より正式導入に向けて、準備を進めた。
- ・おきよめの湯利用を目的にバスへ乗る乗客に対し、帰りの無料乗車券を配布する等利用促進を図った。
- ・国道418号天龍村足瀬の崩落に伴う対応として、通常便・臨時便の時刻表を定め、運行を行った。

②事業の実施状況

取組主体	事業名	実施状況	実施内容等
市町村、地域公共交通会議	移動不便地区の解消	×	引き続き、解消に向け、検討したい。
	運行態様の見直し	×	今後、検討したい。
	効果的な運行便数等の検討	○	デマンドバス導入等の検討ができた。
	乗り継ぎの改善	×	今後、検討したい。
	わかりやすい運賃体系	×	特に変更の予定はない。
	定期券、回数券の充実	×	今後、検討したい。
	公共交通利用優遇事業	○	おきよめの湯へ向かう利用客へ帰りの無料乗車券を配布することで、利用促進を図った。
	免許返納者への移動手段の提供	×	今後、検討したい。
	キャッシュレス決済の導入	×	今後、検討したい。
	各路線のナンバリング化	×	今後、検討したい。
	統一的な時刻表フォーマットに沿った時刻表の改正	○	通常便、臨時便に分けて、時刻表を作成した。
	各市町村におけるホームページによる情報提供	○	通常便、臨時便の運行情報をホームページ、行政無線等により、情報発信している。
	乗り方教室の開催	×	今後、検討したい。
	公共交通に親しむイベントの開催	×	今後、検討したい。
	補助金の活用	○	すでに活用している。
	貨客混載の導入	○	許可申請を行い、令和4年度から正式に運用するよう準備を進めることができた。
	二次交通の利用も見据えた駒場線の改善(阿智村、飯田市)	-	
	自転車シェアリングとの連携	×	今後、検討したい。
	自動運転の導入	×	今後、検討したい。
	AI オンデマンド交通等の活用	×	今後、検討したい。
災害時等の運休に対する対応	○	行政無線等により、迅速に情報発信を行い、運休に対応できた。	

② 事業の実施結果に対する考察 ※事業を実施した結果、得られた成果やその理由などについて考察

通常便・臨時便の時刻表を定めたことで、状況に応じて柔軟に対応することができたことでバス運行に関し、大きな混乱を来すことはなかった。また、貨客混載の導入を大きく進めることができ、次年度以降のその他運行収入の増加にもつなげることができた。

③ 今後の取組方針 ※今後の事業への反映など「改善」を意識して記載

貨客混載が開始となるため、その運用にしっかりと対応していきたい。運行状況自体は非常に低調であるため、今後の利用促進についても検討を進めていきたい。

進捗状況評価シート 令和3年度（泰阜村）

①前年度の取組の概要 ※前年度に実施した取組の概要および社会情勢等について簡潔に記載

広報誌等により、タクシー券福祉バス、JR 飯田線の利用促進に努めた。

②事業の実施状況

取組主体	事業名	実施状況	実施内容等
市町村、地域公共交通会議	移動不便地区の解消	×	
	運行態様の見直し	×	公共バスが通過していないため実施不可能。
	効果的な運行便数等の検討	×	公共バスが通過していないため実施不可能。
	乗り継ぎの改善	×	公共バスが通過していないため実施不可能。
	わかりやすい運賃体系	×	公共バスが通過していないため実施不可能。
	定期券、回数券の充実	×	公共バスが通過していないため実施不可能。
	公共交通利用優遇事業	×	公共バスが通過していないため実施不可能。
	免許返納者への移手段の提供	○	福祉バスの運用、タクシー券の販売を実施。
	キャッシュレス決済の導入	×	公共バスが通過していないため実施不可能。
	各路線のナンバリング化	×	公共バスが通過していないため実施不可能。
	統一的な時刻表フォーマットに沿った時刻表の改正	×	公共バスが通過していないため実施不可能。
	各市町村におけるホームページによる情報提供	○	
	乗り方教室の開催	×	
	公共交通に親しむイベントの開催	×	
	補助金の活用	×	
	貨客混載の導入	×	
	二次交通の利用も見据えた駒場線の改善(阿智村、飯田市)	-	-
	自転車シェアリングとの連携	×	自転車で移動できる地形ではないため実施不可能。
	自動運転の導入	×	
	AI オンデマンド交通等の活用	×	
災害時等の運休に対する対応	×	公共バスが通過していないため実施不可能。	

③事業の実施結果に対する考察 ※事業を実施した結果、得られた成果やその理由などについて考察

村内の主な居住区域を通る公共交通がないため、住民の不便が課題であるが、福祉バスやタクシー券、JR の活用の他、診療所等の送迎など複合的に対応し解消に努めている。

④今後の取組方針 ※今後の事業への反映など「改善」を意識して記載

現行事業を踏まえ、より住民が利用しやすい公共交通のあり方について検討していく。

進捗状況評価シート 令和3年度（喬木村）

①前年度の取組の概要 ※前年度に実施した取組の概要および社会情勢等について簡潔に記載

・村で毎月行っている後期高齢者説明会及び65歳以上の介護保険説明会において、バスの利用パンフレットの配布、説明を実施し、利用促進に努めた。

②事業の実施状況

取組主体	事業名	実施状況	実施内容等
市町村、地域公共交通会議	移動不便地区の解消	○	村民の要望の基、富田線の沿線を行った。
	運行態様の見直し	×	
	効果的な運行便数等の検討	○	富田線について利用実績のない停留所があったため経由地の見直しを行った。
	乗り継ぎの改善	×	
	わかりやすい運賃体系	○	利用説明の際に運賃体系が分かりやすいように、運賃表を提示した。
	定期券、回数券の充実	×	
	公共交通利用優遇事業	×	来年度以降検討していきたい。
	免許返納者への移手段の提供	○	村内の運賃軽減の実施。
	キャッシュレス決済の導入	×	
	各路線のナンバリング化	○	実施済
	統一的な時刻表フォーマットに沿った時刻表の改正	×	
	各市町村におけるホームページによる情報提供	○	運休情報等、随時提供を行っている。
	乗り方教室の開催	○	後期高齢者や学生に対して実施。
	公共交通に親しむイベントの開催	×	実施していない。
	補助金の活用	○	地方創生臨時交付金等。
	貨客混載の導入	×	
	二次交通の利用も見据えた駒場線の改善(阿智村、飯田市)	—	
	自転車シェアリングとの連携	○	農村交流センターで実施している。
	自動運転の導入	×	
	AI オンデマンド交通等の活用	×	
災害時等の運休に対する対応	○	大島線の災害対応。	

③事業の実施結果に対する考察 ※事業を実施した結果、得られた成果やその理由などについて考察

- ・コロナ禍の影響で外出する方が減り、利用が伸びない。
- ・R2まで個人名のバス停（○○様宅前）があったが、地区名等に変更し適正化を図った。
- ・要望により富田線の沿線を行い、住民の利用充実を図った。

④今後の取組方針 ※今後の事業への反映など「改善」を意識して記載

・ノンステップバスの導入が決定しているので、パンフレットや説明会を利用し、高齢者や児童への周知に努めたい。

進捗状況評価シート 令和3年度（豊丘村）

①前年度の取組の概要 ※前年度に実施した取組の概要および社会情勢等について簡潔に記載

・村内外にて実施された、運行路線における大規模な道路改良工事に伴い、一部路線変更とダイヤ改正の実施が必要となったが、利用者の利便性を減少させることなく運行を行うことができた。

②事業の実施状況

取組主体	事業名	実施状況	実施内容等
市町村、地域公共交通会議	移動不便地区の解消	—	
	運行態様の見直し	○	前年度に引続き、道路改良工事に伴う一部路線変更とダイヤ改正を継続し、運行を実施できた。
	効果的な運行便数等の検討	○	研究・検討を継続して行っている。
	乗り継ぎの改善	○	JR・広域バスとの乗り継ぎが継続できている。
	わかりやすい運賃体系	○	乗車1回につき一律の運賃体系を導入している。
	定期券、回数券の充実	○	乗降無料パスを導入している。
	公共交通利用優遇事業	×	研究・検討を行っていく。
	免許返納者への移動手段の提供	○	乗降無料パスの対象としている。
	キャッシュレス決済の導入	×	研究・検討を行っていく。
	各路線のナンバリング化	○	南信州公共交通システムのナンバーに対応している。
	統一的な時刻表フォーマットに沿った時刻表の改正	○	GTFS-JP 研修を生かした、データフォーマットへの登録の取組を開始した。
	各市町村におけるホームページによる情報提供	○	ホームページを活用した情報提供を行っている。
	乗り方教室の開催	×	新型コロナウイルス感染症の拡大防止により未実施
	公共交通に親しむイベントの開催	×	新型コロナウイルス感染症の拡大防止により未実施
	補助金の活用	○	
	貨客混載の導入	×	研究・検討を行っていく。
	二次交通の利用も見据えた駒場線の改善(阿智村、飯田市)	—	
	自転車シェアリングとの連携	×	研究・検討を行っていく。
	自動運転の導入	×	研究・検討を行っていく。
	AI オンデマンド交通等の活用	×	研究・検討を行っていく。
災害時等の運休に対する対応	×	該当事例なし。	

③事業の実施結果に対する考察 ※事業を実施した結果、得られた成果やその理由などについて考察

・JR への乗り継ぎについての取組を継続して行っている結果、通学時の高校生の利用者数の増加に繋がっている。

④今後の取組方針 ※今後の事業への反映など「改善」を意識して記載

・標準的なバス情報フォーマットの作成と公開について、登録路線数の拡大への取組を行っていく。

進捗状況評価シート 令和3年度（大鹿村）

①前年度の取組の概要 ※前年度に実施した取組の概要および社会情勢等について簡潔に記載

・新型コロナウイルス感染症の影響により、中学生対象のバス利用方法のワークショップが開催できなかったが、南信州地域交通問題協議会で作成したリーフレットを配布し、周知することができた。

②事業の実施状況

取組主体	事業名	実施状況	実施内容等
市町村、地域公共交通会議	移動不便地区の解消	—	
	運行態様の見直し	○	地域内交通だが、利用者が低調であったため診療所への送迎を目的とした送迎車を試験運行した。
	効果的な運行便数等の検討	○	
	乗り継ぎの改善	×	
	わかりやすい運賃体系	—	現状維持
	定期券、回数券の充実	—	現状維持
	公共交通利用優遇事業	—	現状維持
	免許返納者への移手段の提供	○	地域内交通・福祉有償運送等の棲み分けを検討した。
	キャッシュレス決済の導入	×	今後検討したい
	各路線のナンバリング化	—	
	統一的な時刻表フォーマットに沿った時刻表の改正	—	
	各市町村におけるホームページによる情報提供	○	HPや広報誌で時刻表の変更などをお知らせした。
	乗り方教室の開催	×	コロナ感染症で開催できなかったが、その代わりとしてリーフレットの配布を行った。
	公共交通に親しむイベントの開催	×	今後検討したい
	補助金の活用	○	
	貨客混載の導入	—	
	二次交通の利用も見据えた駒場線の改善(阿智村、飯田市)	—	
	自転車シェアリングとの連携	×	今後検討したい
	自動運転の導入	×	今後検討したい
	AI オンデマンド交通等の活用	×	
災害時等の運休に対する対応	×		

③事業の実施結果に対する考察 ※事業を実施した結果、得られた成果やその理由などについて考察

・地域住民から公共交通を待つ場所が欲しいということで、地域公共交通会議にて検討し、令和4年度バス停の上屋を設置することとした。

・地域内交通が低調であったため、福祉有償運送事業者とも協議を行い、地域内交通の棲み分けを行うことができた。

④今後の取組方針 ※今後の事業への反映など「改善」を意識して記載

地域内交通の棲み分けは現在試行期間中のため、今後利用者からの意見も踏まえ検討していきたい。

令和3年度 南信州地域交通問題協議会 決算

収入金額	2,499,641 円
支出金額	1,316,720 円
差引残高	1,182,921 円 (次年度へ繰越)

(収入)

(単位：円)

科目	当初予算額	決算額	比較増減	備考
負担金	2,172,000	2,172,000	0	南信州広域連合負担金
繰越金	327,627	327,627	0	R2年度繰越金
諸収入	373	14	△ 359	利息
計	2,500,000	2,499,641	△ 359	

(支出)

(単位：円)

科目	当初予算額	決算額	比較増減	備考
運営費	344,000	136,728	△ 207,272	
報償費	225,000	100,500	△ 124,500	委員等報償費
旅費	119,000	36,228	△ 82,772	講師・委員等旅費
需用費	30,000	36,112	6,112	
消耗品費	30,000	36,112	6,112	除菌ウェットティッシュ、カラーペーパー等
印刷製本費	0	0	0	
役務費	20,000	30,950	10,950	
通信運搬費	10,000	30,950	20,950	通信運搬費、振込手数料
使用料	10,000	0	△ 10,000	
委託費	0	0	0	
委託料	0	0	0	
事業費	2,106,000	1,112,930	△ 993,070	新型コロナウイルス感染症への対応 ・感染症対策 チラシ等作成費 344,630円 標準的なバス情報フォーマット研修等 366,300円 交通不便者や来訪者に対応した公共交通の利便性向上 ・路線図部分貼り替え 118,000円 ・ホームページ維持管理等業務 66,000円 利用促進、啓発事業 218,000円
計	2,500,000	1,316,720	△ 1,183,280	